

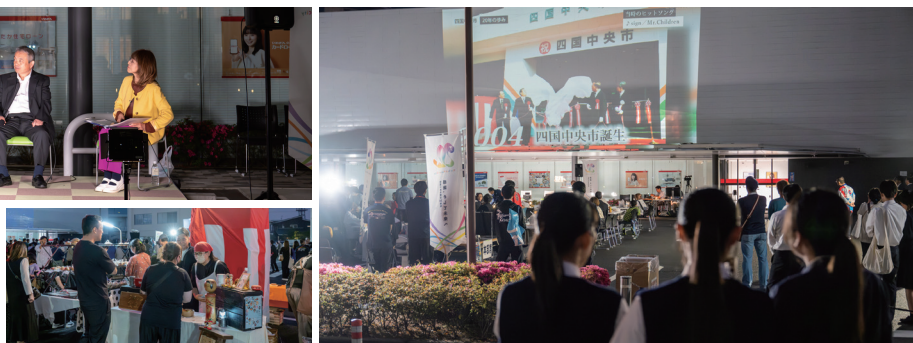


**テーマは「大好き!!」  
子育てフェスタに6千人**

5月26日、「四国中央子育てフェスタ」がしこちゅーホールであり、約6千人の来場者が「大好き!!」をテーマにした催しを楽しみました。恒例の「赤ちゃんはいはいレース」には、50人の赤ちゃんが出場。笑いあり涙ありのレースは今年も大盛況でした。

市発足20周年を記念した特別イベント「遊育」では、参加者がテレビ番組などを使って遊びました。

そして、今年も子育て支援団体のブースやマルシェが各所に軒を連ね、会場のあちこちから笑顔と元気な声が溢れていました。



**市役所前が歩行者天国に！  
思い出スクランブルナイト**

5月31日、市発足20周年記念イベント「思い出スクランブルナイト」が市役所庁舎前交差点を車両通行止めにして開催されました。

愛媛銀行と四国中央テレビがタッグを組んだこのイベント。普段は車が行き交う交差点は、キッチンカーやテーブルが並ぶマルシェに、愛媛銀行三島支店の白い壁面は、本市の20年の歩みを映し出すシアターに変身しました。また、映像をバックに各分野で活躍している人々たちによるトークショーが行われるなど、来場者たちは、映し出された映像にそれぞれの思い出を重ねながら、特別な夜を楽しんでいました。



**新緑の新宮を記憶と記録に残そう  
フォトロゲイニングin新宮**

6月2日、新宮の穴場から観光スポットまで地図を頼りにチームで巡り、撮影した写真で得点を競う「フォトロゲイニングin新宮」が開催され、県内外から31チーム91人が参加しました。新宮小・中学校をスタートした参加者たちは、霧の森やあじさい園、ダムなどを巡り、新緑の新宮を堪能しました。



**茶そばわんこ大会復活！  
霧の森お茶まつりが大盛況**

6月2日、「霧の森お茶まつり」がありました。霧の森誕生25周年＆市発足20周年という記念イヤーのお茶まつりは、会場に設置されたリングで愛媛プロレスがパフォーマンスをしたり、コロナ禍で中止されていた「茶そばわんこ大会」や「もちまき」が復活するなど、例年にも増して賑わいました。



## 初夏の嶺南を彩り続けて27年 嶺南あじさい会が県知事表彰



下長瀬あじさい公園やあじさいロード（国道319号）など、嶺南地域であじさいの植樹や道路の清掃活動を続けている「嶺南あじさい会」（合田篤夫会長）に、「生活環境づくり活動功労者知事表彰」が贈られました。合田会長は「今後も活動を続け、地域の活性化につなげたい」と話しました。

## コンサートの収益を能登へ 堤宏文さんが義援金を寄贈



本市出身のドラマーで、4月にしこちゅーホールでコンサートを開催した堤宏文さんから、収益の一部などが能登半島地震義援金として寄贈されました。5月27日の寄贈式で堤さんは、「困っている方々の力になりたい」と話し、日赤愛媛県支部四国中央市地区長である篠原市長に目録を手渡しました。

## ひとり暮らしの高齢者住宅へ (有)清水防災が住宅用火災警報器を寄贈



5月23日、(有)清水防災（長野大副代表取締役・上柏町）から、ひとり暮らしの高齢者住宅に設置してほしいと、住宅用火災警報器100個が寄贈されました。同社からの寄贈は今年で4年目。これまでに寄贈された警報器は500個になります。警報器は、消防職員が対象の住宅を訪問し設置します。

## 給食から世界を知ろう 小中学校でオリンピック給食



7月から開催されるパリオリンピックの前に、食を通して他国への理解を深めようと、世界の料理を取り入れた「オリンピック給食」を実施しました。この企画には、元オリンピック選手で市職員の近藤楓さんも参加。一緒に給食を食べながら、児童たちの質問に答えていました。  
（写真は川之江小学校）

## 柳瀬ダム70周年×市発足20周年 小学生が水の利用を学ぶ



市民生活と産業を支える大切な水瓶の一つである柳瀬ダムが70周年を迎えたことを記念して、吉野川ダム統合管理事務所と市水道局が「水利用を知る見学会」を開催しています。6月6日には、北小学校の3～5年生がダムや発電所、浄水場、そして丸住製紙大江工場を見学し、水と紙のつながりを学びました。

## 紙の開発ってどうやるの？ 小学生が新たな紙製品の可能性を学ぶ



6月10日、新宮小・中学校で開催された公開授業「新たな紙製品開発の可能性」に、市内の小学生21人が参加しました。児童たちは講師を務めた愛媛大学紙産業イノベーションセンターの長から、水や熱に強い紙、破れない紙など、次々と生まれる特別な機能を持つ紙について学びました。





## 祝 中曽根スポーツ少年団が 学童軟式野球大会で好成績！

4月14日から5月18日にかけて、県内7球場で開催された「第44回全日本学童軟式野球愛媛県大会」に出場した「中曽根スポーツ少年団」が、見事上位入賞を果たしました。

今大会には県内から41チームが出場。準決勝に駒を進めた同チームは、優勝チームである桜井クラブ（今治）と対戦し、惜しくも決勝進出は逃しましたが、8月に開催される中四国九州大会の出場権を獲得しました。

キャプテンを務める大西悠太さん（中曽根小6年）は、「仲間を信じ、一生懸命プレーして優勝します」と、大会にかける意気込みを話しました。

昭和48年の創立時から、地域の歴史を研究してきた宇摩史談会（鴨威会長・写真左）は、昨年創立50周年を迎えました。同会では年2回、会誌「宇摩史談」を発行しており、今回発行した50周年記念誌には、俳人・小林一茶の宇摩郡来訪に関する考察などの多彩な寄稿文が掲載されています。また、これまでの掲載内容を一覧にした総目録も同時発行。これらは同会で販売しているほか、市内の図書館でも読むことができます。宇摩の歴史を感じてみませんか？



## 祝 宇摩史談会が 創立50周年 記念誌を発行

## 市長の ひとりごと

### あしたからも頑張るぞ！

全国市長会に出席できるのも今回が最後かもしれないなという思いもあり、窮屈な日程の中、事務局に無理を言って東京へ出かけた。県議の時代から重ねてみると、会議や公務・要望陳情などで幾度となく上京したものである。

二泊三日の慌ただしい仕事のけりを付けて帰るべく、足腰の不便を理由にしてタクシーを利用した。大都会のまちもビルも、視界から手のひらいっぱい風景をどんどん変化させていく。時々飛行機も目に入る。橋の下には、何台ものガントリークレーンを含め港が機能している。通常はモノレールをほとんど利用していたから、車中からの景色は、年代とともに変化したビルの様相以上に深い重いものを心に投げかけてくる。有難いことに、市長に

なってからは秘書の職員がサポートしてくれているので肉体的には凄く助けてもらっている。

高いマンションが数多くあり、様々な憎悪とか五臓六腑に染みる恨みのような感情は信じられないくらい浄化されている。総括的に見れば、それだけに人に恵まれた人生であったなと思う。そのように自分に言い聞かせながら頑張ってきたが、案外呑気にしんどいことも、深刻ぶらないでやってきたのかもしれないと思う。

そんなことを思っていたら空港に到着した。もう頭の中は、公務や帰ってからの雑務に占領されていた。

明日からも、許されて与えられた仕事と格闘して身も心もボロボロになるまで精進するぞ。



四国中央市長 篠原 実